

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- エンパワメントスクール(E S)の役割を十分に果たし、人間力を向上させ、自律し自立することで社会貢献できる人材を育成する
- 学びを大切にし、基礎基本の確かな学力の向上と、夢実現の発展的学力の養成。
 - 規範意識・コミュニケーション力を身に付け、自己と他者を大切にできる人間育成と、生徒が安心・安全・満足できる学校。
 - 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

- 1 成城高校がめざすE Sとしての成果をあげるための取組み
- (1) E Sの基本である学び直し学習を着実にを行い、発展的学力や知識習得のための取組み
- ア 「授業力向上プロジェクト」にて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組みを行う。
- すべての教科で「何をどのように学び」「何ができるようになるのか」を明確に伝え授業の実践に取り組む。
- ＊生徒向け学校教育自己診断における授業満足度令和5年度は78.3%、令和8年度に80%にする。(R 3・72.9%、R 4・77.4%、R 5・78.3%)
- イ I C Tを活用した学びの充実(すべての普通教室でインターネットがつながる環境と、タブレットを無線でつなぐ環境の整備)
- ＊ プロジェクター、タブレット等I C T機器の活用方法を一層研究し活用を進める。
- 生徒満足度 90%をめざす(R 3・82%、R 4・82.6%、R 5・80.3%)
- ＊ 座学でのI C T活用実施者割合を令和5年度は90.8%とし令和8年度まで維持する。(R 3・100%、R 4・100%、R 5・90.8%)
- 2 高い規範意識を持ちコミュニケーション力を向上させ、自分と他人を大切に、安全・安心で充実した学校生活を送れる学校作り。
- (1) 生徒が高い規範意識を持ち、充実した学校生活を送るための取組み強化。
- ＊令和6年度保護者対象学校教育自己診断での「学校に対する満足度」の目標を80%にし、令和8年度には90%にする。
- (R 3・89%、R 4・91.1%、R 5・87.4%)
- ＊令和6年度生徒対象学校教育自己診断で、「学校へ行くのが楽しい」の目標を80%にし、令和8年度には90%にする。
- (R 3・62.8%、R 4・72.8%、R 5・71.9%)
- ＊総遅刻回数・欠席日数とも前年比各10%減を達成する。
- (遅刻、R 3～4・なし、R 5・2780回 欠席、R 3～4・なし、R 5・5072回)
- § コロナ禍の影響で令和3～4年度の数値は比較対象とせず。
- ＊中退率維持 ゼロをめざす。(R 3・1.1%、R 4・0.3%、R 5・0.3%)
- ＊令和6年度、部活動加入率全体70%を目標、1年生80%にし、令和8年度全体の加入率80%をめざす。
- (R 3・58%、R 4・57%、R 5・49.1%)
- (2) 挨拶の徹底と対人との会話力の向上をめざす。
- ＊日常の学校生活の中で、教員から積極的な声掛けを行い、令和8年度、100%の向上をめざす。
- (R 4・生徒95% 保護者82.6%、R 5・生徒 80.8% 保護者77.0%)
- (3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導。
- ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、S C及び担任団を中心としたサポートチームの強化。
- イ いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり。
- ウ 寄り添う心と丁寧な指導で、生徒の安全で安心な学習環境を維持する。不登校ゼロをめざす。
- 3 進路保障
- (1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる。
- ア 授業公開3回実施。教員相互の授業見学を積極的に行い、毎回レポートを提出。
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実。
- ＊教育産業が実施する学力診断テストを用い生徒の学力を定点観測し学力向上をはかる。評価指標であるD 3の割合を全体の10%以下に、令和8年度までにする。
- (R 3・12.4%、R 4・31.8%、R 5・38.7%)
- (2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み。
- ア 進路指導部主導型の進路指導体制を構築し、卒業時進路未決定者0(ゼロ)の実現。
- ＊入学当初の進路希望・夢実現に向けて、やる気にさせる取組みを実施。
- ＊進路未決定卒業生率を令和6年度以降減少させゼロをめざす。
- (R 3・5%、R 4・8.2%、R 5・2.1%)
- イ 社会で役立つ資格等を取得するための取り組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。
- ＊令和6年度の資格取得者・検定試験合格者数300件を目標とし、令和8年度まで維持する。
- (R 3・444名、R 4・514名、R 5・253名)
- ウ 系列のさらなる充実を図り、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。
- 4 地域に根差し見守られ、地域に貢献できる学校づくり。
- (1) 令和7年度入学者選抜志願者確保。
- ア 「チーム成城」での組織的な情報発信。
- ＊中学校訪問150校実施を組織的に取り組み強化しそれを維持する。(R 3・162校、R 4・156校、R 5・200校)
- ＊学校説明会を年5回実施 参加者800名以上を目標とする。
- (令和4年度は生徒・保護者向け5回計669名、令和5年度は生徒・保護者向け5回計707名)
- ＊令和6年度入試入学者の第一志望での入学者数を95%とし、令和8年度まで維持する。(R 3・91.2%、R 4・91.5%、R 5・89%)
- イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり。
- ＊文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を維持する。(R 3・60名、R 4・578名、R 5・503名)
- 5 組織の活性化と人材育成。
- (1) 初任者を含む経験の少ない教員のスキルアップを図る校内研修を充実させる。 初任者校内研修：12回実施
- ※相互の授業見学を積極的に行い、良好な人間関係と授業力向上をめざす。
- (2) コンプライアンス意識の向上職務の効率化の取組み。
- (3) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底。
- (4) 職務の効率化の取組み。 ※年間時間外勤務 → 400h以内 (400時間超 R 4・27名、R 5・20名)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
〈生徒〉○結果 ●分析 ○「学校に行くのが楽しい」が、わずかに向上（71.9%→73.2%） ○「授業がわかりやすい」が、わずかに向上（78.3%→82.2%） ○「先生の指導には納得できる」が向上（51.7%→62.9%） ○「学校行事は楽しく行えるよう工夫されている」が向上（66%→75%） ●授業に対する生徒の肯定的な回答が増加。丁寧でわかりやすい授業を心がける教員の授業力が向上してきたと考えられる。 ●対話を重視する生徒指導の取り組みの成果が出てきた。 ●各行事における、生徒会の取り組みの成果であると考えられる。 ○「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が、わずかに向上（84.2%→86.2%） ○「いじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が、わずかに向上（79.9%→85.4%） ○「日頃から清掃活動に取り組み、校内美化に努めている」が、わずかに向上（61%→66%） ●問題事象が生じた際には当事者への指導に加え、学年集会や全校集会を開き、生徒たちに当事者意識を持たせる指導を行ってきたためと考えられる。 ●生徒会や美化委員会の奉仕活動に加え、日常の清掃活動が「当たり前」のものになってきた。 ○「学校は1人1台端末を効果的に活用している」が向上（76.1%→83.6%） ●1人1台端末の活用が日常的に行われてきたと考えられる。 〈保護者〉○結果 ●分析 ○「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」がわずかに向上（77%→79.5%） ○「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」がわずかに向上（66.2%→70.3%） ○「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応している」がわずかに低下（83.4%→81%） ○「学校は、子どもに生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を養おうとしている」がわずかに向上（84.9%→85.9%） ○「来校した際、清掃が行き届き、生徒の生活環境が整っていると感じる」がわずかに向上（89%→91%） ●学校に対する前向きな姿勢（「学校が楽しい」）は生徒の結果よりも評価されている。授業に対する評価については、授業公開への参加を積極的に呼びかける等して、保護者に授業の様子が伝わる工夫が必要である。 ●校内美化に対する取り組みに一定の客観的評価が得られた。 〈教職員〉○結果 ●分析 ○「学校として部活動の活性化に取り組んでいる」がわずかに向上（50%→54.9%） ●新しく同好会を立ち上げたことも影響していると考えられる。 ○「校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が向上（89%→100%） ○「学習指導の方法や内容について、教員間で連携し、工夫・改善を行っている」が大きく低下（87.1%→75.8%） ○「授業内容について、他教科の担当者と話し合う機会がある」が大きく低下（61%→48.5%） ●授業見学の機会は活用しているものの、その後の教員間連携や改善につながっていない。「情報の共有」が大きな課題である。積極的に教員間で「授業の話ができる」機会を増やしていく。 ○「学校の生徒指導方針は適切である」が低下（90.7%→81.3%） ○「教育相談体制が整備されており、生徒は担任以外の教職員とも相談することができる」が低下（91%→81.3%） ●生徒指導方針について、教員の理解が得られていない部分があると考えられる。全教職員に今一度本校の生徒指導方針を徹底する必要がある。また、理解が得られない部分等については、再検討も考える。 ●相談できる教員を増やすために、次年度より1年次にチーム担任制を導入。 ○各分掌や各学年間の連携が円滑に行われている」が大きく低下（68.6%→56.2%）	第1回学校運営協議会 議事録 1 日時 令和6年6月25日(火)14時 2 内容 第1号議案 令和5年度「学校経営計画・評価」について 〈事務局提案〉 令和5年度 学校経営計画・評価について、別紙の通り報告 第2号議案 令和6年度学校経営計画（案）について 〈事務局提案〉 令和6年度 学校経営計画（案）について、別紙の通り報告 〈質問・ご意見等〉 ・学力に関する指標について、国語・数学・英語の3教科全てを向上させることは困難だが、1教科だけであれば、生徒は達成感を感じやすいのではないか。 ・生徒自身がいじめや人間関係のトラブルをどのように解決できたのかという事後アンケートをとってみてはどうか。 ・授業公開時に、どこにいけばよいのかわからない中学生も多い。案内係が必要ではないか。 【連絡事項】 1. 令和6年度の行事予定について 2. 各分掌・学年より、本年度の取り組みについて 〈質問・ご意見等〉 ・学校側は入学してくる生徒さんに対する思いをしっかりとっておられる。 ・先生方へのエンパワメントも必要である。 ・人生の大切な時期に先生方が関わっている。うまくいかない事も多々あると思うが、それも意味のある事だと思ってやっていただきたい。やりがいを感じにくい時もあると思うが、それが意味のある事だと自覚なさってやっていってほしい。 第2回学校運営協議会 議事録 1 日時 令和6年11月6日(水)15時 2 内容 第1号提案 令和6年度「学校経営計画」進捗状況について 〈事務局提案〉 学校経営計画進捗状況について、別紙の通り報告 〈質問・ご意見等〉 ・遅刻が増えているということであるが、進級が厳しくなるのではないか。 ・学校に行かなくてもよいという考え方が保護者にも認知されている。 ・（学校に行く行かないという）多様性があっても良いが、大学・短大に進学すれば通わないといけない。 ・時間外在校等時間が増加傾向の中で、部活動加入率の向上をめざしているのは矛盾しているのではないか。 →本校における長時間勤務の原因は、生徒指導や保護者対応が主である。 ・時間外在校等時間増加の大きな要因が保護者対応であるということなら、留守番電話設定にして、かけることも受けることもできないようにするのはどうか。 【連絡事項】 1. 各分掌・学年より、本年度の取り組みについて（進捗状況） 2. 本校がめざす方向性について 〈質問・ご意見等〉 1・スマートフォンの指導について、学校が把握できないところまで求められることもあるのではないのか。生徒は校内でのスマートフォン利用は一切不可という成城を選んで来ている。 2・新コースの設定について、私学のように他校を比較したり、データ化したりしてはどうか。 ・学校の特色を打ち出す際に、他のエンパワメントスクールや周辺の高校と比較するのはどうか。 ・工科高校がどんどん減っている中で、成城高校に工業系の系列が残っているのはありがたい。 ・デジタルアートコースがなくなるのは残念。何らかの方法で存続してほしい。 第3回学校運営協議会 議事録 1 日時 令和7年1月22日(水)15時 2 内容 第1号提案 令和6年度「学校経営計画・評価(案)」について 〈事務局提案〉 学校経営計画評価(案)について、別紙の通り報告 第2号議案 令和7年度学校経営計画（案）について

府立成城高等学校

○「職員会議をはじめ、各会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している」が大きく低下（68.6%→53.1%） ●教員間の「連携」「情報共有」の弱さがはっきりと数字に表れた。会議のあり方や日頃の教員間連携について、改善するための取り組みを打ち出していく必要がある。	〈事務局提案〉 令和7年度 学校経営計画（案）について、別紙の通り報告 〈質問・ご意見等〉 ・「わかる授業」で学力をエンパワメントするということだが、面白い授業をどうやって作るのか、ということも重要ではないか。 ・超過勤務の原因が部活動指導ではなく、生徒指導や保護者対応にあるということだが、勤務時間内での対応ではどうか。先生方は保護者対応でかなりダメージを受けているはず。これをきっちり対応する必要がある。 ・学校教育自己診断によると、成城高校に入学してよかったと生徒と保護者は満足している。先生はそうように受けとめていないが、先生はもっと自信を持っていいと思う。 【連絡事項】 1. 各分掌・学年より、本年度の取り組みについて（達成状況） 〈質問・ご意見等〉 ・ロッカーが設置されたため、忘れ物がなくなったと子どもたちも言っていたが、自身でロッカーの整理整頓ができていないのは残念である。 ・中学校でも子どもが「何をしていいのかわからない」という目的意識がないケースが多い。中学校で目的意識を持てず、進学した高校でも持てないままであることが多いようだ。 ・生徒指導について、日常の中で生徒側がその指導をどう受けとめているのかが大切である。生徒への声かけをどのようにしていくかが重要になるのではないか。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 本校がめざすエンパワとしての成果をあげる取り組み	（1） E Sの基本である学び直し学習を着実に 行い、発展的学力や知識習得のための取組み ア 授業力向上研修の充実 イ I C Tを活用した学びの充実	（1） ア ・「授業力向上プロジェクト」を機能させ授業力向上を目的とした研修の企画、立案、実施を計画的に行う。 ・観点別評価に対応した授業力向上研修を行い、教員相互の授業観察をより一層充実させる。 イ ・各教科で、I C Tを活用した新たな仕掛けづくりを考え、全教科で共有し生徒の学ぶ意欲を更に充実させる。 ・オンラインチームを中心に、「学びの保障」を組織的に行う。	（1） ア ・「わかる授業」「何ができるようになったか」を実感できる授業を実現し、生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を 80%に引き上げる。 [78.3%] イ ・生徒向け学校教育自己診断において「授業などでタブレットやプロジェクター、コンピューターを活用している」の項目の満足度を90%にする。[80.3%] ・I C T活用実施者を 90%に維持する。[90.8%]	ア ・「授業満足度」が 82.2%で達成できた(○) イ ・「授業などでタブレットやプロジェクター、コンピューターを活用している」が 78.3%と昨年度より下がり、目標には達していない。活用の工夫を検討したい。(○) ・I C T活用者が 100%となり達成した。(◎)
2 高い規範意識を持ちコミュニケーション	（1） 生徒が高い規範意識を持ち、充実した学校生活を送るための取組み	（1） ・教頭、首席が中心となり、初任者を中心とした教師力向上研修を継続実施。 ・規律指導と安全安心、学習指導の充実を柱に、生徒に寄り添い、支援していく姿勢を貫く ・懲戒指導と説諭指導をうまく使い分けて、更に生徒に寄り添った指導を行う。 ・生徒との対話を通じ、関係性を築くことでの安易な遅刻、欠席、早退の防止。	（1） ・学校教育自己診断の保護者の「学校への満足度」80%を維持する。[87.4%] ・生徒の「学校へ行くのが楽しい」を 80%にする。[71.9%] ・学校教育自己診断の生徒項目「成城に入学してよかった」を 80%を目標とする。[72.3%] （エンパワメントスクールへ入学してよかった） ・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各 10%減を達成する。 (令和5年度遅刻 2780 回、欠席 5052 日) ・中退率ゼロの維持 [0.3%]	（1） ・学校教育自己診断の保護者の「学校への満足度」が 90.4%で達成できた。(○) ・生徒の「学校へ行くのが楽しい」が 73.2%と昨年度より上がったが、目標には達成していない。さらなる向上に努めたい。(△) ・学校教育自己診断の生徒項目「成城に入学してよかった」が 72.9%と昨年度より上がったが、目標には達成していない。さらなる向上に努めたい。(△) ・総遅刻回数：3840 回 総欠席回数：5837 回 前年度より増加しており、目標には達成していない。指導方法を工夫していきたい。(△) ・中退率 0.86%(○)

府立成城高等学校

シ ョ ン 力 を 向 上 さ せ 自 分 と 他 人 を 大 切 に し 安 全 ・ 安 心 で 充 実 し た 学 校 生 活 が 送 れ る 学 校 作 り	(2) 挨拶の徹底と対人との会話力の向上をめざす	・学校生活を最後まで支援する姿勢を貫く ・生徒会役員を選挙で選出し、生徒会を充実させ、生徒が中心となって、行事や部活動の活性化を図る。	・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。 (全員体験入部2日) ・1年生の部活動加入率 80％を実現する。[49.1％]	・実施した。(○) ・1年生部活加入率 54.6％で、昨年度より上がったが、目標には達していない。さらなる向上に努めたい。(△)
	(3) いかなるいじめも許さない・見逃さない指導と、人権教育の推進を、生徒の実態に合わせた指導	(2) ・日常生活において、教師自らが挨拶を率先して行う。 ・挨拶週間等をつくる。 ・他者の前で話ができる機会を設ける。 (スピーチコンテスト等)	(2) ・学校教育自己診断の生徒項目に「しっかり挨拶ができている」[80.8％]、 ・保護者項目に「挨拶をするようになった」等、90％を実現する。[77.0％]	(2) ・生徒の「しっかり挨拶ができている」が 86.9％で昨年度より向上した。(◎) ・保護者項目「挨拶をするようになった」77.3％で昨年度とほぼ同率。(△)
3 進 路 保 障	ア 支援コーディネータを核とした支援委員会と、SC及び担任団を中心としたサポートチームの強化	ア ・組織的対応に欠かせない情報共有のため職員会議には近々の事案・事象の報告を行う、 ・SC、SSW、CC、との外部人材を活用及び相互連携を図り、支援体制を充実させる。	ア ・いじめが起因する不登校ゼロをめざす。[0名]	ア ・いじめが起因する不登校はゼロにはならなかった。面接・添削指導等を行う通信教育制度を活用し、卒業まで支援する。(△)
	イ いじめアンケートを各学期に実施し、情報収集と相談しやすい環境づくり	イ ・生徒集会等において常に学校の姿勢を訴えていく。 ・いじめアンケートを必要に応じて随時行い情報収集に努める。(定期的には年間3回)	イ ・いじめの未然防止の観点から生徒向け学校教育自己診断における「先生はいじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」を 90％以上をめざす。[79.9％] ・いじめアンケート3回実施。[3回]	イ ・生徒の学校教育自己診断「先生はいじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が 85.4％で、昨年度より上がったが、達成していない。さらなる向上に努めたい(△) ・いじめアンケート3回実施。(○)
	ウ 人権教育の推進	ウ ・あらゆる教育活動を通じて、人権教育を計画的・総合的に推進する。	・学校教育自己診断の項目に「人権について学ぶ機会がある」を 80％以上をめざす。[79.4％]	・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」が 80.5％で、達成した。(○)
	(1) 基礎学力を身に付け、発展的学力を充実させる取り組み	(1)	(1)	(1)
	ア 公開授業・研究協議を充実させた授業改善。	ア ・研究授業、公開授業、授業見学を計画的・組織的に実施。各学期に1度	ア ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を 80％にする。[78.3％]	ア ・生徒の授業満足度が 82.2％で達成した。(○)
	イ 「主体的・対話的で深い学び」の探求・実践・充実	イ ・教育産業が実施する学力診断テストを継続し、生徒の学力を定点観測し、生徒のモチベーションを上げるとともに、教員のスキルアップの材料とする。	イ ・学力判定指標D3の割合を全体の 10％以下にする。[38.7％]	イ ・学力判定指標D3の割合が全体の 51.6％となり、達成できなかった。基礎学力の定着に向けて指導方法を工夫していきたい(△)
	(2) 希望進路の実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取り組み	(2)	(2)	(2)
	ア 進路指導部主導型の進路指導体制構築	ア ・計画的な進路指導と、保護者懇談等を通じての情報提供を積極的に行う。	ア ・保護者の学校教育自己診断における「学校は将来の進路や職業について、適切	ア ・保護者の学校教育自己診断「学校は将来の進路や職業について、適切な指導を行っている」が 92％となり、達成できた。(○)

府立成城高等学校

	イ 社会で役立つ資格等を取得するための取組みと、進学に向けた英語、数学、国語の進学講習の充実。 ウ 系列のさらなる充実を図り、生徒のニーズに即した仕掛けで、夢の実現を支援する。	・「大学・短大進学」、「専門学校・看護医療進学」「公務員・一般就職」の3つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。 イ ・卒業時に英検3級程度の力をつけさせる。 1年生は全員必須、またそのための学習の機会を設ける。 ・生徒・保護者への周知・指導強化 ウ ・大学と連携を図り「主体的・対話的で深い学び」の校内研修を実施する。2回計画	な指導を行っている。」については90%以上にする。 [85.5%] ・卒業時進路未決定者0（ゼロ）実現。[4名] イ ・2級程度2名、準2級程度15名、3級程度50名を実現。 [2級0名、準2級2名、3級4名] ・資格取得者・検定試験合格者を300件以上にする。 [253件] ウ ・職員研修参加率95%を実現する。 [87.5%]	・進路未決定者 1.7%(△) イ ・2級0名、準2級1名、3級4名(R6 12月末現在)(△) ・341件。(○) ウ ・職員研修参加率は80.9%で達成できなかった。研修内容について検討していく。(△)
4	（1） 令和7年度入学者選抜志願者確保 ア 「チーム成城」での組織的な情報発信 イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり	（1） ア「チーム成城」での組織的な情報発信 ・学校訪問を維持し、本校の実践内容を広く知ってもらう。 ・学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験年数の少ない教員にも経験を積ませる。 イ ・地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・文化祭・体育祭の地域等への呼び掛けを一層強め、内容の充実を図る。	（1） ア ・中学校訪問150校実施を組織的に取り組む。[200校] ・学校説明会で、中学2・3年生徒・保護者・中学校教員等を5回開催し、計800名の参加を集める。 [生徒・保護者向け5回707名] ・塾経営者への学校説明会1回 ・中学校進路指導主事向け説明会1回 [塾6名、進路主事17名] ・令和6年度入試入学者の第一志望での入学者数をアンケート調査実施。95%を目標 [89%] イ ・広報活動の充実。 成城ニュースを積極的に発行し、玄関前に掲示するとともに、了解の得られた地域や中学校へ掲示のお願いをする。[95号] ・HPの充実[95更新] ・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。[年3回] ・文化祭・体育祭に合わせて1000名以上の来場者を迎える。[文化祭・体育祭503名]	（1） ア ・169校訪問。(○) ・学校説明会全5回実施。来校者数計567名。参加者が昨年度より減少し、達成できなかった。HP等を活用した広報活動を工夫したい(△) ・塾対象説明会1回実施。(○) 塾経営者5名参加。 ・中学校対象説明会1回実施。(○) 中学校進路主事14名参加。 ・令和6年度入試入学者の第一志望による入学者数は92.7%で、昨年度より上がったが、目標には達しなかった。(△) イ ・成城ニュース96号発行。(○) ・HP更新96回。(○) ・地域行事(盆踊り・敬老フェスティバル・もちつき大会)に生徒会・ダンス部が参加。(○) ・文化祭・体育祭の来場者数は872名で、昨年度より増加したが、達成できなかった。(△)
5	（1） 校内組織の活性化と職務の効率化の取組み ア 初任者を含む経験の少ない教員の教師力向上。 イ コンプライアンスの意識を高め徹	（1） ア ・「成城みらいプロジェクト」を充実させ、未来を見据えた人材育成と、新たな取組みへ着手する。 ・授業見学週間の充実。 ・経験年数の少ない教員が、経験年数豊富な教員の授業見学を実施。各学期に1度 イ ・会議等において、不祥事の防止、個人情報の適正管	（1） ア ・学期に1回教頭・首席が中心となり教員のスキルアップをはかる。[研修4回] ・授業観察用紙提出数目標100枚とする。[109枚] イ ・不祥事、個人情報の漏洩、職	（1） ア ・教員のスキルアップ研修は4回実施。(○) ・授業見学「月間」を2回実施。授業観察用紙は106枚の提出があった。(○) イ ・指標は達成できなかった。(△)

府立成城高等学校

育 成	底する	理、職場のハラスメント防止について周知する。	場のハラスメントの事象を 0 件にする。[0 件]	
	ウ 危機管理意識・防 災教育や保健・安 全・衛生管理意識を 高め、校内体制を組 み取組む。	ウ ・校内においてマニュアルを作成し、全教職員に周知・ 徹底する。	ウ ・年間 1 回の研修を実施する。 [1 回]	・事象発生時に速やかに管理職への報告が行 われ、被害を最小限に食い止めることができ た。(○)
	エ 時間外勤務を軽 減させる	エ ・職務が勤務時間内に終えるように、効率的に取組む。	エ ・年間を通して時間外勤務を 400 h 以内ににする。[20 名] ・計画的に年次休暇・振替休暇 の取得をする。	エ ・12 月末段階で、400 時間超 13 名。時間外勤 務のさらなる軽減に向けて、業務の見直しを はかりたい。(△)